

# 古代都市の道路計畫

野村兼太郎

一

都市が如何して發達して來たかの問題は極めて複雑な問題である。最初都市は恐らく村落から自然に發生して來たものであらう。しかしすべての村落が都市になつたわけではない。幾つかの村落は何等かの理由に依つて都市とならざるを得なかつたのである。その何等かの理由が即ち都市發生の原因である。又元來村落でなかつたところにも都市が出来る場合がある。この場合に於いてもそれは都市となるべき何等かの理由があつた筈である。

都市發生の原因はそれぞれ國に依つて特殊の事情が存する。しかしこゝではそれ等の複雑な歴史を述べる必要はない。唯概括的に如何なる原因があつたかを指摘すれば足りる。通常都市發生の原因を四つに分かつ。即ち宗教的原因、軍事的原因、政治的原因及び經濟的原因である。勿論これ等の原因の幾つかは相共に作用して都市を發生せしむる事が少くない。例へば大阪が本願寺の門

前町として生ずると共に、商業の要地であつたと云ふ經濟的理由もその都市構成に重要な要素であつたが如きである。

これ等種々なる原因から都市は發生する。しかしそれ等は何れも自然的に都市となる原因を求めたのである。例へば大寺院があればその寺院に住居する僧侶に衣食住を給與する人々、又その寺院に集まる信者に種々なる品物を供給する商人等が自らその寺院の周圍に住居を構へる。そして何時かはそれが都市となるが如きである。交通の便利な地に市場が出来所謂市場都市を發生するものその例である。この場合都市は何等計畫的に作られたものでなかつた。

かう云ふ自然に發生した都市に於いては、普通道路等は甚しく不規則であり、統制されてゐない。然るに人類は自然に都市を發生させたばかりでなく、計畫的に都市を建設するに至つた。この發達は人類として大なる進歩である。勿論如何に都市を建設すると云つても都市の發生に全然不適當な地に都市を作ることとは出来ない。しかし唯人の集まるに任せて市街を膨脹させるのは、あまりに人間の意思的行動を無視せるものである。かゝる無方針、無統制を棄て、計畫的に都市を秩序づけるんとするのが近世に於ける都市計畫の發達に外ならない。

然るにかゝる都市計畫とも見らるべきものがすでに遠き古代に於いて現れてゐることを知るのである。私は今その都市計畫全般について云々しようとは思はない。唯その主要なるものゝ一つである都市の道路について概観して見ようと思ふのである。古代都市の個々について述べること

は他の機會に譲つて、こゝでは概括的に論述するに止めようと思ふ。

## 二

古代に於いては西洋と東洋とがそれぞれに別個に發達してゐると考へられる。然るに都市の道路を見ると何れも所謂碁盤目型を形成してゐる。支那及び支那を模せる日本の建設都市が碁盤目型であることは周知の事實である。これが支那の井田の法と何等かの關係を有すると考へられぬこともないが、それは何等實證すべき資料を有つてゐない。又ずつと以前に於ける支那と歐羅巴の東部との關係も考へられぬこともない。殊に紀元前二六〇〇年頃にバビロニアの文明が支那に傳へられたと云ふ學者もある。しかしこの場合あまりに推測を逞しくすることは危険である。

バビロニアの首府バビロンについては、吾人はヘロドタスのやゝ誇張せる記述を有する。しかしバビロンの道路は直角に交はる幾つかの直線から成立つてゐることが後世の發掘で明かにされた。しかしそれは正確な碁盤目型から成立つものではない。バビロンに於いては一本の甚だ廣い大通りがある。これは決して一般民の生活や商業等を顧慮して作つたものではなく、何かの祭典や行列のために作られたものである。この點はこのメソポタミア地方のこの種の都市の道路の特徴をなすものである。即ちニネヴェ、アツシュル等も同じ特徴を有してゐる。この點から見てバビロニアの道路計畫は未だ都市生活を中心としての道路ではないと云ふことが出來よう。

これ等近東地方の状態について、吾人の知るところは甚だ少ない。しかしこれ等の地方の都市道路の特徴は明かにギリシアに於いて繼承されてゐる。しかし一口にギリシアと云つてもかなり長い期間に渡つてゐる。その間に都市の道路計畫も多少の變化を示してゐるやうである。そこで次に多少詳しくギリシア時代について述べて見よう。

### 三

ギリシアの都市計畫はアテネに始まると云はれてゐる。當時の計畫者は紀元前四八〇年頃に生れたミレタスのヒポグマスであつたと傳へられてゐる。彼が建設したと云はれてゐる都市は三つある。アテネの港ピリュス、植民地ツウリイ、ロオデスである。その外近世になつて發掘された諸都市例へばサイリイヌ等を見ると、この時代のギリシア都市の道路計畫の大體を知ることが出来る。それ等は直角に交る幾つかの長い直線の道路から成立つてゐるが、しかし碁盤目型をなさない。非常に長い幅の廣い大通りが都市の中央を走つてゐる。この大通りは都市の大建築物に至るためとか、又は行列のために作られたのではないかと思はれる。この點に於いて全く近東地方パピロニアの系統を追ふものである。

然るにこの時代に次いで來たれるマセドニア時代即ち紀元前三三〇年から同一三〇年に至る間に著しい進歩を示した。アレクザンダア及びその部下の諸將は多くの都市を建設した。アレクザ

ンダアの建設したアレクザンドリアはあまりに有名である。その外彼の若い部將の一人後のセリユクス一世は彼自身の名に依つてセリユシア彼の妻アバマの名に依つてアバミア母ロオデイスの名に依つてロオデイシア父アンチオクスの名に依つてアンチオキアの諸都市を建設した。かく諸地方に都市を建設することに依つて自ら彼等の技術も明かに進歩を示してゐる。これ等の都市は何れも略碁盤目型の街區を形成してゐる。都市のこの構成は明かに今日まで傳へられてゐるものである。

これ等の都市の建設者が何れも軍人である。このことからかう云ふ直線的な街區を作るに至つた何等かの理由を述べぬこともない。軍人らしい規則正しいことに對する好みも現れてゐると考へられるし、又その後ロオマ帝國や後述するロオマ老兵に依つて作られ諸都市が同じく碁盤目型を採用してゐる點からも同じやうな關係が考へられる。しかしアリストオトルは市街戰に於いて直線の街路よりも曲りくねつた道路の方が防禦によいと云つてゐる。従つてかう云ふ軍事上の理由から建設したのではなく、もし關係ありとせば、軍人の規則正しさと單純さとの表現であつたのであらう。

#### 四

羅馬時代になると都市の建設は一層廣汎な範圍に亘つて行はれた。勿論羅馬都市の起源を知る

ことは甚だ困難である。初期の都市について幾つかの例を擧げることが出来るが、それ等は何れも完全なものではない。しかし都市計畫は全體として羅馬時代に於いて一層進歩したと云ふことが出来る。

後期共和政時代及び初期帝政時代に於いて多くの伊太利都市が建設もしくは再建された。共和政時代の羅馬人はギリシア人と同じやうに、人口が増加すると屢々多數の團體的移民を行なつた。これ等の移民團は確實に小都市を建設するに足るものであつた。一般にギリシア人は政治的に獨立せる新しい都市を建設した。羅馬人はこれと異なつて、その植民は羅馬に從屬し羅馬の支配の中心地を形成した。それ等は羅馬領に對して半ば要塞の役をなした。殊に羅馬の老兵達は過剩人口として取扱はれ、さう云ふ都市——コロニアと呼ばれるもの——を多く形成した。これ等の數は約紀元前一二〇年頃以前に、七八十の數に達したと云ふことである。

これ等の都市構成の型は初期伊太利及びギリシアの都市計畫に類似點を有してゐたが、又ある點では兩者と異なつてゐる。都市の境域は小さい正方形又は長方形である。それを二個の主要路が四つの部分に分割し、その他のこれに平行する道路に依つて、正方形又は長方形の區劃(insula)に分かつてゐる。道路はすべて互に正確に直角に相交はつてゐる。そして各區劃は正方形であると長方形であるとを問はず略々全體を通じ同形である。唯東西に走る主要路の北側のものは他のものより大なることがある。

羅馬の都市計畫はギリシアの影響に依つて改められ、そして一層數學的正確さと左右均齊を強めたのであつた。何時これが起つたかは明瞭ではない。ある學者は屢々アウガスタスに歸する。この最初の皇帝アウガスタスにその著書を献じた建築家ヴィルヴェユスは都市が基盤目型を採るべきでなく、むしろ八角形即ち星形をなすべきであると強く主張した。これを以つて見ればアウガスタスが始めたとは考へられない。何故ならばヴィルヴェユスが彼の被護者の計畫を特に排斥したとも思はれず、又彼の批評が伊太利の都市計畫の最初のものに批難する口調と考へられないからである。

羅馬の都市の道路計畫は伊太利本國に於いても、又その他の羅馬領に於いても略々同様の型に發展して行つた。しかしこの羅馬の計畫は羅馬帝國の滅亡と共に滅亡した。吾人は今日これを斷片的に發見し得るに止まる。しかしこの羅馬帝國の道路計畫は再び早くも第十三世紀頃から、その死灰の内から蘇つたのであつた。

## 五

以上私は主としてハアヴァファイルドの「古代都市計畫」に依つて古代の道路計畫の極めて大要を述べた。羅馬時代の都市の道路計畫が近世の道路計畫とどれだけ密接な關係があるかは疑問であらう。私が今敢て古代都市の道路を云々する所以は單にそれ等の關係を明かにせんがためではない。

同じやうな都市の道路計畫は一六五二年和蘭人がジャヴァにバタヴィアを建設した際に行はれた。又一六八二年ペンが北米にフィラデルフィアを建設した時にも採用された。これ等と古代都市と如何なる關係があると否とを問はず、その人類の意識的計畫と云ふ點に於いて重要な意義がある。

今日は所謂自由放任の經濟時代を過ぎ去つたことは何人も承認するであらう。吾人は單に自然の調節にのみあらゆる經濟現象を樂天的に一任することは出来ない。否むしる積極的に人類の意識的努力に依つて計畫的に統制することを必要とする。殊に道路の如き場合に於いて一層さうである。道路は自然に發達して來たものではあるが、今や人類の知識に依つて計畫的に完成さるべき時期に到達したのである。この意味からすでに數千年前道路について大なる考慮を拂ひ、計畫をなせる古代人の努力に對して、大なる尊敬を拂はざるを得ないのである。